

朝夕ずいぶん気温も下がってきて、そろそろスタツの登場です。季節が変わると、その状況に合った道具やしつゝはまた子交替ですね。

人は長い歴史の中で様々な道具を作り、生活がしやすいように工夫してここまできたのでしょう。

私たちの日々をあらためて見つめなおすと、生まれた時から様々な道具によって生活が支えられ過ごさせてもらっています。

生まれてからすぐのガラガラ、哺乳ビン、乳母車... から始まって数えきれない道具の恩恵によって「今の私」があるとも言え過ぎではない気がします。

毎日の日常茶飯の営みの中でのことはもちろんですが、季節・年齢、時世、国柄、風土... によっても様々でしょう。

多岐多様 それぞれの私に与えられている「仕事」においては、その道ならでの道具があり、役割を果たしていく上でその道具は必須の手立てです。

しかも担っていく作業をよりゆたかなものにしていくとすると、絶えず「その場へ 瞬間へ 現場において 道具は試行錯誤の中で改善されたり新たに作り出されたり次々に産み出されているのでしょう。

作業の担い手のためはもちろんですが、その営みの延長線上にある仕事によって成されるものが届けられる「誰か」の願いや幸せに応えられるように道具が求められ作り出されるのですから、ひとつひとつの道具はまさに魔法のグッズたちですね。

秋が深まっています。

園のデッキに陰を作ってくれていたよしずや遮光ネットが取りはずされました。

ラブリな花壇をぐるりと囲んでいたベンチや庭のままごとテーブルの天板をバスの先生が新しいものに取り替えてくれました。

何年かぶりにブランコがむすうの庭に(時間限定で)付けられ子どもたちを揺らし楽しませてくれています。

空の色がやわらかく透明に輝く季節に、新しい色つき筆ペンとら本手に入れました。さあ私は何を書きましょう? 描きましょう?

ひとつの小さな道具から誰かのよろこびが今日も生まれることを... 澄んだ空に願ひましょう。

そして同じように人の手から生み出された恐ろしい道具がこれ以上作られたり使われたりが無くなりますように!!

園長 升光泰雄